

滝上町外国語指導助手

Jordy's コーナー



初めて、北海道に来た時、雪の多い所に住むということで私はワクワクしていました。アメリカに住んでいた頃スキーやスノーボード等のウィンタースポーツをするには遠くまで出かける必要があったので、中々挑戦できずにいました。

来日して最初の年に、まずはスノーボードに挑戦しました。1年間やってみたけれど私にはとても難しく、そもそもウィンタースポーツに向いていないのではないかと思ってしまうほどでした。その後は、スキーに挑戦してみました。スキーに乗ったときはなんだかすごくしっくりと来て、私に合うような感じがしました。始めはスピードも遅くて、曲がるのも難しかったけれど、毎日練習を繰り返して上達するのを感じ、上手になるにつれて練習をするたびスキーが楽しくなっていました。アルペンスキーだけでなくバックカントリー、テレマーク、モーグル、クロスカントリー等様々な競技を上手に滑ることができるようになりたいと思いました。私はスキーをしているとき、とても爽快な気分になります。毎回、一生懸命頑張って練習しているのですが、まだまだ自信がないので、上手になりたいと思っています。

今年、私は50回スキーを滑りに行くという目標を立てました。中々難しいかもしれないけれど頑張ります！週末には毎回友人とスキーに行こうと思っていますし、もちろん桜ヶ丘スキー場にも行きたいと思っています。桜ヶ丘スキー場は多様なコースがあって、いろいろ練習しています。運動にもなるクロスカントリーのコースもありますし、なによりたくさん町の人や友人に会うことができるので、それがとても楽しいです。自分だけでスキーの上達に励んできましたが、まだまだうまくなりたいです。上手な方に教えて頂けたらいいなと思っています。



友人とのスキー場での1枚

おぐり アイ 小栗EYE



郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

「宝船」

正月二日に見る夢を初夢といい、その年の運勢を占う夢占いの一つです。おめでたい夢の一富士、一鷹、二茄子、四綿、五煙草と続きます。いづれも駿河の国の名前で、神君徳川家康公にあやかっただものと言われているとあります。初夢に吉夢をみるようにと枕の下に置いて寝たのが宝船です。米俵や金袋など財宝を山と積んで、七福神がにぎやかに乗り合わせ、「寶」の字の帆を揚げた帆掛宝船の絵です。宝船は、古くは稲穂を乗せただけの物から、米俵を積んだものになり、銭箱など財宝を山と積んだものになり、それからさらに七福

神が乗り込んでとおめでたい限りになってきました。宝船の絵には、回文(上から読んでも下から読んでも同じ音になる文)が書かれたものもあります。回文「永き世の十のねふりの皆めざめ波乗り舟の音のよきかな」を三回唱えて寝ると吉夢が見られると信じられています。この宝船は、縦二十四センチ、横三十三センチの半紙に謄写版(ガリ版ともいいます)刷りの「船船符」です。寶の字の帆に財宝と鯛を積んでいますから比較的古い絵柄になっています。いつ頃のものは残念ながらわかりません。「滝上神社」と「宮司之印」の朱印が押されています。この宝船できっと良い初夢が見られたことでしょうか。ところで、もしも初夢に悪い夢を見てしまったら不運な一年になってしまうのでしょうか。安心して下さい。そんな時には「不運」を宝船に乗せて流してしましましょう。そして幸運な一年を!!



郷土館所蔵の「宝船」